

東日本大震災15年 復興・創生シンポジウム



他人事から 自分事へ

—東日本大震災から15年、迫りくる巨大地震に私ができること—

2026. **2.13** (FRI)
13:00 - 16:00
(開場: 12:30)

教訓の
共有


復興・創生
と防災への
課題

自分事化

[会場]

イイノホール (URL: <https://www.iino.co.jp/hall/>)

東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4階

 東京メトロ 日比谷線・千代田線 「霞ヶ関」駅 C4出口直結
東京メトロ 銀座線 「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分

[お申込み方法]

以下URL、またはQRコードより事前参加申込みを
お願いいたします。※申込締切: 2026年1月30日 (金)

<https://yab-lp.yomiuri.co.jp/bousai2026/>



- 現地開催のみ、オンライン開催なし
- 事前申込制 (先着順500名)
- 参加費無料

SPEAKER



御厨 貴

東京大学先端科学
技術研究センター
フェロー



徳山 日出男

一般財団法人国土
技術研究センター
理事長



今村 文彦

東北大学副学長・
一般財団法人3.11
伝承ロード推進
機構代表理事



栗山 進一

東北大学災害科学
国際研究所研究所長


共催 国立大学法人東北大学 (グリーン未来創造機構、災害科学国際研究所) / 読売新聞社 /
一般財団法人国土技術研究センター / 一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

後援 復興庁 / 仙台経済同友会

特別協賛 仙台ターミナルビル株式会社

協賛 三和シャッター工業株式会社 / 東北電力株式会社 / TOPPAN株式会社

<お問い合わせ先> 復興・創生シンポジウム事務局

 03-5244-5364 (土日祝、年末年始除く10:00~18:00)

 jimukyoku@cpfine.biz

～東日本大震災から15年 何を学び 何を伝え 行動するのか～

2011年の東日本大震災以降、熊本地震、能登半島地震など、日本列島では災害が続いています。2024年夏には南海トラフ地震臨時情報が発出され、2025年3月には被害想定と主な対策が出されました。さらに2025年7月30日には、カムチャッカ半島地震による津波警報が長時間発表されました。首都直下地震も今後30年以内に高い確率で起こると言われており、「自分の住む地域は地震災害とは無縁」とはいえない状況です。災害被害を最小限にとどめ、復興を着実に進めていくためには、災害に備えて一人ひとりの意識を高く保つための働きかけ【自分事化】が不可欠です。

しかし、残念ながら、東日本大震災から10年のタイミングはコロナ禍で、関係者が一堂に会す機会を持つことが叶わず、議論する場が殆どありませんでした。15年を過ぎると「災害は風化が始まる」と言われています。今こそ、東日本大震災以降、防災・復興などの活動で何が分かってきたのか？何が出来たのか？できなかったのか？を振り返り、復興と創生の現状と、防災の課題を共有化し、一人ひとりが何をすべきか【自分事化】する好機としたいと思っています。

PROGRAM

13:00-16:00

▶ 開会挨拶 湯上 浩雄 (東北大学理事・副学長)

▶ [第一部] 基調講演

東日本大震災が残した最大の教訓とは？出来たこと・課題に残ったこと

御厨 貴 (東京大学先端科学技術研究センターフェロー)

徳山 日出男 (一般財団法人国土技術研究センター理事長)

▶ [第二部] 報告

復興・創生の現状と次への防災・減災の課題

古橋 季良 (復興庁 審議官)

今村 文彦 (東北大学副学長・一般財団法人3.11伝承ロード推進機構代表理事)

栗山 進一 (東北大学災害科学国際研究所 研究所長)

企業プレゼンテーション

松崎 哲士郎 (仙台ターミナルビル株式会社代表取締役社長)

▶ [第三部] パネルディスカッション

何を学び、何を伝えるのか。自分事化に向けて私たち一人ひとりができること

<モデレーター>

福島 洋 (東北大学災害科学国際研究所准教授)

<パネリスト>

渡邊 梓 (東北大学) / 遠藤 菜々子 (福島大学)

岩槻 佳桜 (武蔵野大学) / 齊藤 美佳 (高知大学)

ゲルスタ ユリア (東北大学災害科学国際研究所准教授)

総合司会：板橋恵子 (エフエム仙台防災・減災プロデューサー)

東日本大震災15年復興・創生シンポジウム<他人事から自分事へ>

[日時] 2026年2月13日(金) 13:00-16:00

[会場] イイノホール(東京都千代田区内幸町2-1-1飯野ビルディング4階)
(URL: <https://www.iino.co.jp/hall/>)

----- お問い合わせ先 -----

復興・創生シンポジウム事務局

☎ 03-5244-5364 (土日祝、年末年始除く10:00~18:00)

✉ jimukyoku@cpfine.biz

お申込みURL/ QRコード

<https://yab-lp.yomiuri.co.jp/bousai2026/>

- 現地開催のみ、オンライン開催なし
- 事前申込制(先着順500名)
- 参加費無料





東日本大震災から 15年とこれからの Bosai

2026年 3月 21日 (土) 東京・大手町

あの震災から15年。
これまでを振り返り、これからのBosaiを
多様な立場から考えるシンポジウムを開催します。

お申込はこちら

参加費無料・先着300名



一般財団法人
世界防災
フォーラム

東北大学災害科学国際研究所
上廣防災学寄附研究部門
Uehiro Disaster Risk Reduction Research Division

理念

2026年3月、あの東日本大震災の発生から15年が経ちます。
被災地では多くの復旧・復興のための取り組みが行われました。

しかし一方で、南海トラフ地震や首都直下地震など大規模災害のリスクは依然として高い状況にあります。
さらに、温暖化の進行に伴い、豪雨や洪水、土砂災害の激甚化は国内外で深刻化しており、
防災・減災の重要性はますます高まっています。

こうした背景を踏まえ、世界防災フォーラムと東北大学災害科学国際研究所・上廣防災学寄附研究部門は、
「東日本大震災から15年を振り返るとともに、これからのBosaiをどう考えるか」をテーマに
下記のとおりシンポジウムを開催いたします。

シンポジウム概要

日時

2026年3月21日（土） 13:30 開場 / 14:00 開会

会場

大手町フィナンシャルシティ カンファレンスセンター（サウスタワー3F）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-7[詳細はこちら](#)

言語

日本語

当日は手話通訳士による同時通訳および自動文字起こしの画面表示を行う予定です。

注意事項

申し込みの上限に達した際、受付を停止します。

キャンセル時はGoogle Formからご自身の登録内容を編集してください。

手話通訳および自動文字起こしが必要な方は前方のお席にご案内しますので、受付でお申し出ください。

※自動文字起こしは誤変換が発生する可能性もございます。あらかじめご容赦ください。

[お申込はこちら](#)

登壇者紹介（予定）

水鳥 真美東北大学特任教授（客員）・
前国連事務総長特別代表（防災担当）兼
国連防災機関長**戸羽 太**(株)オフィスTOBA 代表取締役・
元陸前高田市長**深松 菜**(株)深松組 取締役経営企画室
長・
仙台reborn(株) 専務取締役**ゲルスタ・ユリア**東北大学
災害科学国際研究所
防災実践推進部門
准教授**石川 美希**東北大学
災害科学国際研究所
上虞防災学寄附研究部門
助教**平川了治**パシフィックコンサルタンツ株式
会社 技師長**八木弘毅**株式会社日建設計
都市・社会基盤部門 ランドスケー
プグループ 公共空間デザイン部 部
長**蛭間 芳樹**(株)日本政策投資銀行 産業調査部
課長 兼 イノベーション投資部 参事
役・
設備投資研究所 主任研究員

近江健司

栗山進一

(株)日本経済研究所 産業戦略本部
海外調査部 主任研究員東北大学
災害科学国際研究所
所長

プログラム (予定)

開会式14:00-
14:35

開会挨拶

小野裕一 (東北大学 災害科学国際研究所・一般財団法人 世界防災フォーラム 代表理事)

基調講演「変遷する災害の様相にどう立ち向かうか」

水鳥真美 (東北大学特任教授 (客員)・前国連事務総長特別代表 (防災担当) 兼国連防災機関長)

第一部 震災から15年を振り返る+これから14:35-
16:20

基調講演「東日本大震災と復興を振り返る」

戸羽太 (株式会社オフィスTOBA 代表取締役・元陸前高田市市長)

講演「復興のその先へー民間事業者から見た沿岸部再生の現在地とこれからー」

深松栞 (株式会社深松組 取締役経営企画室室長・仙台reborn株式会社 専務取締役)

講演「災害伝承と多様性」

ゲルスタ ユリア (東北大学 災害科学国際研究所 防災実践推進部門 災害メモリー学分野 准教授)

講演「防災対策としてのインクルーシブな職場環境の形成ー聴覚障害のある同僚との交流経験に関する分析からー」

石川美希 (東北大学 災害科学国際研究所 上廣防災学寄附研究部門 助教)

対談「インフラデザイン×アーバンデザインで何ができるか」

平川了治 (パシフィックコンサルタンツ株式会社 技師長)

八木弘毅 (株式会社日建設計 都市・社会基盤部門ランドスケープグループ公共空間デザイン部 部長)

第二部 防災の産業化と金融の役割 イノベーションとリスクファイナンスの観点から16:35-
17:05

蛭間芳樹 (株式会社日本政策投資銀行 産業調査部課長 兼 イノベーション投資部参事役 兼 設備投資研究所 主任研究員)

近江健司 (株式会社日本経済研究所 産業戦略本部 海外調査部 主任研究員)

第三部 防災アワード17:05-
17:30

防災アワード 趣旨説明

稲葉繁樹 (株式会社ティーアンドエス 代表取締役)

受賞者発表・表彰

受賞者プレゼンテーション

閉会式17:30-
18:00

特別講演

栗山進一 (東北大学 災害科学国際研究所 所長)

閉会挨拶

喜多功彦 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付参事官 (国際担当))

主催・共催・後援（予定）

主催



一般財団法人
世界防災
フォーラム

東北大学災害科学国際研究所
上廣防災学寄附研究部門
Uehiro Disaster Risk Reduction Research Division

後援



Development Bank of Japan Inc.

協力



支援する

世界防災フォーラムは、「災害で苦しむ人をこれ以上増やしたくない」という願いを込めて、2018年12月に設立されました。

東日本大震災、そして全国、全世界の災害の教訓を共有するため、行政・学術・企業・市民が参加できる「世界防災フォーラム」の継続的な開催など、Bosaiを世界に広げる様々な活動に取り組んでいます。

一人ひとりのご寄付が、「Bosai」の国際的な普及の大きな助けとなります。寄付を頂ける方は、下記ページからお手続きをお願いいたします。

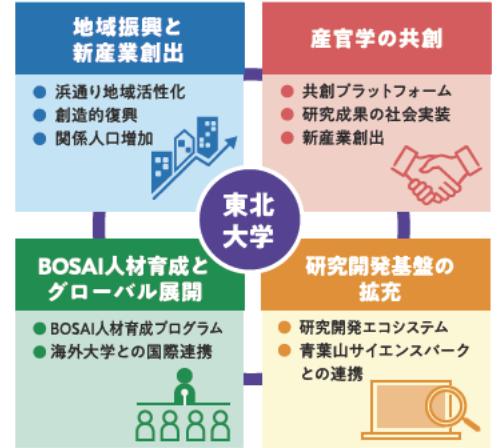
ご寄付のお願い

東北大学FUKUSHIMAサイエンスパークについて

東北大学FUKUSHIMAサイエンスパークは、東日本大震災からの創造的復興と地域活性化を目指す新事業です。

青葉山新キャンパスで整備中の「サイエンスパークモデル」を福島県浜通り地域に横展開し、地域の研究開発エコシステムを構築します。研究だけでなく、防災・減災、農業振興、地域産業の発展など、地域が抱える課題解決に向けて、「産・学・官」が協働する「共創の場」を形成し、研究成果の社会実装や新産業創出をめざします。

さらに、防災をテーマにした「BOSAI人材育成プログラム」を通じて、震災の教訓を未来へ生かす人材を育成し、海外大学との協働や国際的な発信にも取り組みます。



東北大学FUKUSHIMAサイエンスパーク浜通り拠点について

東北大学は、2023年9月に浪江町と包括連携協定を締結しました。今般、浪江町の協力を得て、浪江町が整備する産学官連携施設内に研究拠点を、また、その隣接地に、学生の研修・社会貢献活動等のための拠点を、それぞれ整備します。

これらの拠点は、「地域フィールドでの研究・教育・産学官共創の場」として、被災地域の復興+新産業創出+人材育成を目的とするものです。

研究活動

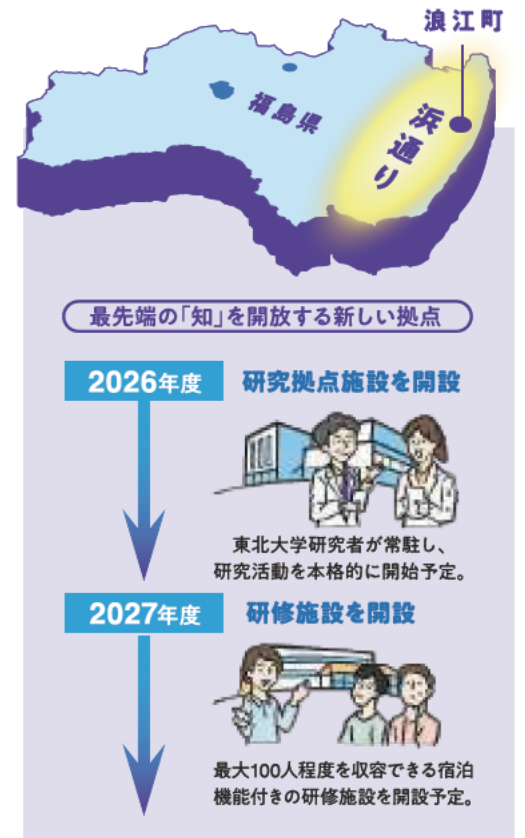
- 東北大学の研究者が常駐し、以下の分野で研究を推進



- 福島国際研究教育機構 (F-REI) や地域企業との共同研究による新産業創出
- 遠隔授業などの教育活動への活用

学生・研修活動

- BOSAI人材育成プログラム
震災の教訓を活かした防災・復興まちづくり人材の育成
- 学生ワークショップ・フィールドワーク
学生が地域や自治体の課題に向き合い、自分事化や解決に向けて実践的に取り組む
- ボランティア活動
復興支援ボランティアの拠点として次世代の地域貢献人材を輩出



プロジェクトオーナーご挨拶



今村 文彦

東北大学グリーン未来創造機構 副機構長/
副学長 (社会連携・校友会・基金担当)



このたび、「東北大学 FUKUSHIMAサイエンスパーク支援基金」へのご関心をいただき心より感謝申し上げます。東北大学は、浜通り地域において、大学・地域・企業・行政が連携し、研究・教育・産業の新たな創出を目指す「FUKUSHIMAサイエンスパーク構想」を立ち上げました。本構想は、災害からの創造的復興を基盤に、防災・減災の知見や最先端技術を社会へと生かし、地域課題の解決と防災人材の育成、そして持続可能な未来の創出に挑むものです。皆さまのご支援が、東北から日本さらには世界の新しい未来を切り拓く力となります。どうぞ温かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。

BOSAI人材育成プログラムについて

BOSAI人材育成プログラムは、福島浜通りを拠点に、防災・減災の知と最先端研究を融合し、変化に対応できる人材を育成する取り組みです。段階的にBOSAIについて学んでいただけるようレベル別プログラムを開発し、研究・教育・国際貢献を進めています。

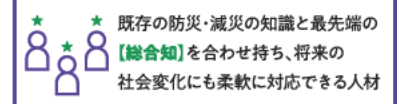
プログラムの特徴と目指す人材像



プログラム概要

BOSAIの基礎、理論と実践を、福島浜通りから世界へ、未来へ

初級編では「BOSAIの基礎」を中心に学び、中級と上級では「温故知新」や「総合知」に関する事柄をさらに深く習得していきます。



BOSAI人材育成プログラム 3つの枠組み ~自分と大切な人の命を守るために~

| BOSAIの基礎 | 温故知新 | 総合知 |
|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 災害の仕組み・情報・自助共助を学び、備える力を身につける。 | 震災の経験から学び、教訓を未来の防災へ活かす視点を養う。 | 理工・医療・教育など多分野の知を学び、実践力を高める。 |

BOSAI人材の段階と資質・能力の対応

| | BOSAIの基礎 | 温故知新 | 総合知 |
|-----|----------|-------|-------|
| 初級編 | ★ ★ ★ | ★ ☆ ☆ | ★ ☆ ☆ |
| 中級編 | ★ ☆ ☆ | ★ ★ ★ | ★ ★ ☆ |
| 上級編 | ★ ☆ ☆ | ★ ★ ☆ | ★ ★ ★ |

初級編 授業計画

- 目指す人材像 地域と協働し未来を守る「BOSAI人材」へ 初級編はその第一歩
- 受講スタイル オンライン型 / ハイブリッド型
- 対象 中学生からシニアまで (小学生は保護者と受講可)

| 資質・能力 | タイトル | 内容 |
|--------------|-------------|---------------------------|
| 1 BOSAI動機づけ | オリエンテーション | BOSAIとは?オリエンテーション |
| 2 | 災害のメカニズム・種類 | 主な災害(地震、津波、台風、大雨) |
| 3 | 災害のメカニズム・種類 | その他の災害(大雪、火山噴火、火災) |
| 4 | 災害の捉え方 | 基本的な考え方(例:自助・共助・公助) |
| 5 | 災害の捉え方 | 最近の考え方(例:事前防災、災害進化) |
| 6 BOSAI基礎 | 災害に備える | 備蓄、防災グッズ、発電、連絡手段、避難計画、耐震化 |
| 7 | 災害に備える | 救急法、心肺蘇生、AED、健康、心のケア |
| 8 | 災害に備える | 避難所、シミュレーション、タイムライン |
| 9 | 災害情報 | 災害情報の種類、取得方法 |
| 10 | 災害情報 | ハザードマップを読み解く、活用する |
| 11 温故知新 | 東日本大震災 | 東日本大震災と原子力発電所事故 |
| 12 | 災害からの復興 | 災害からの復旧、復興、そして創造的復興 |
| 13 総合知 | 災害と研究 | 災害と研究、実践 |
| 14 BOSAI動機づけ | まとめ | 福島浜通りから世界へ |

BOSAI人材育成プログラム開発のためのワークショップ 「BOSAI人材育成プログラム 2025 Summer」

参加者の声

「現場を見て、聞いて、考える」ことで、防災・復興における多分野連携・市民参加・教育の重要性を実感しました



政策・科学・市民活動などが交差する「防災の多面性」に気づく機会となった

BOSAIを世界標準の包括的防災教育モデルに育ててほしい



「記憶の継承」や「語り部」の重要性を実感しました



ジェンダー視点、科学技術、心理、行政など多様な切り口から防災を学び、視野が広がった

自国や地域にこの学びを還元したい

BOSAI人材育成では、防災・減災の視点から気候変動や自然災害に備えるための知識や行動を身につけるためのプログラムも準備しています。私たちが自分や家族、大切な人の命を守るためにできることがあります。ぜひご参加ください。

こんな方におすすめ

- ① 自分の家族や大切な守りたい人がいる
- ② 会社や地域で防災・減災の知識を必要としている
- ③ 自然災害や大地震を経験したことによる防災の大切さを知っている
- ④ BOSAI人材として今後活躍したい
- ⑤ 東日本大震災で被災した東北大学の同窓生としてBOSAIに興味がある
- ⑥ 防災・減災を仕事としている

ご寄附のお願い

このプロジェクトの「特別な仲間」になりませんか

ご寄附いただいた皆さまには、プレミアムサポーターとして以下の特典をご用意しております。

- 特典 1 FUKUSHIMAサイエンスパークやBOSAI人材育成の最新情報の優先配信
- 特典 2 今後実施予定のワークショップやフィールドワークの参加を優先的にご案内

未来をつくる最前線へ、あなたをご招待します。さあ、ともに船出しましょう。

詳しくはこちら



<https://www.ggi.tohoku.ac.jp/project/1788/>

イベントのお知らせ

2026年3月14日(土)に仙台国際センターにて開催される「仙台防災未来フォーラム2026」に出展予定です。

仙台防災未来フォーラム2026

詳しくはこちら



<https://sendai-resilience.jp/mirai-forum2026/>

ご寄附の方法

個人の方

- 振込取扱票でのお申込み（郵便振替）
同封の「振込取扱票」に必要事項をご記入の上、ご利用ください。振込手数料は本学が負担いたします。
- ウェブサイトからのお申込み
下記URLまたは右記QRコードにアクセスしていただき、お手続きをお願いいたします。
URL：<https://www.kikin.tohoku.ac.jp/tohoku/entry.php?fmMode=donationForm&purposeCode=400000&supportCode=438000>



ウェブサイトからのお申込みの場合、決済方法は以下からお選びいただけます。

【決済方法】

①クレジットカード決済



②銀行振込

お申込み完了後、振込先の口座番号をご連絡いたします。
取扱金融機関：みずほ銀行／七十七銀行／ゆうちょ銀行

③コンビニ決済

お申込み完了後、お近くのコンビニでのお手続きが可能です。

コンビニ決済上限金額

- セブンイレブン、デイリーヤマザキ：49,000円以内
- ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、セイコーマート：299,000円以内

④郵便振替

お申込み完了後、払込取扱票を送付いたします。払込取扱票が届きましたらお手続きをお願いいたします。

⑤PayPay NEW

PayPayでのご寄附も可能です。
(決済上限金額：30万円以内)



⑥Amazon Pay

Amazon Payでのお申込みが可能です。また、返礼品と領収書が不要の場合は、100円からのご寄附も可能です。専用の申込みフォームをご用意しております。以下よりお申込みいただけます。

100円～のご寄附お申込み
(領収書・返礼品無し)



1,000円～のご寄附お申込み
(領収書・返礼品有り)



定額寄附のご案内

東北大学では、継続的にご支援いただける定期寄附の申込みフォームをご用意しております。

定額寄附申込みフォーム(ウェブサイト)からのお手続き詳細

東北大学基金ウェブサイトの専用フォームにアクセスしていただき、以下手順にてお申込みをお願いいたします。

- 右記のお申込みフォームURL・QRコードにアクセスしてください。
- 申込みフォームが開きます。定額の寄附金額(1,000円以上)および住所・氏名などの必要事項をご入力ください。

【決済方法】

定額でのご寄附はクレジットカード決済がご利用いただけます。決済は1回ごとのご寄附と同様のカードでのお申込みが可能です。

定額寄附のお申込みはこちら

ウェブサイト
お申込みフォーム



法人・団体の方

ウェブサイトからのお申込みが可能です。また、手続き上書面が必要な場合は、「寄附予定書」をお送りいたしますので、下記お問い合わせに記載の基金事務局までご連絡ください。
詳しくは[法人・団体の方]：<https://www.kikin.tohoku.ac.jp/application/corporations-and-organizations>にてご確認ください。



感謝の気持ちをこめて

【ご芳名の掲載】

「東北大学基金寄附者芳名帳」、「東北大学基金ウェブサイト」に掲載いたします。(希望者のみ)

【賞の贈呈など】

ご寄附の総額に応じて賞の贈呈および以下の特典をご用意しております。

| 種別 | 個人 | 法人・団体 |
|-------|-----------|-----------|
| 荣誉功労賞 | 3,000万円以上 | 1億円以上 |
| 特別功労賞 | 1,000万円以上 | 5,000万円以上 |
| 功労賞 | 100万円以上 | 1,000万円以上 |
| 特別功績賞 | 50万円以上 | 500万円以上 |
| 功績賞 | 10万円以上 | 100万円以上 |

①寄附者顕彰銘板への芳名の掲載

東北大学片平キャンパス内エクステンション教育研究棟に設置している「東北大学基金寄附者顕彰銘板」に掲載させていただきます。(希望者のみ)

②「感謝のつどい」へのご招待

総長をはじめとした本学関係者との交流・意見交換を目的とした「東北大学基金感謝のつどい」へご招待いたします。

③東北大学校友会プレミアム会員としての特典

各種優待や広報誌の送付、大学主催のイベントへご招待いたします。

【返礼品の贈呈】

コーヒー、お茶、しおりのいずれか1つをお選びいただけます。また、1年間(年度単位)の合計寄附額が10万円以上の皆さまには、寄附金額に応じた特別な返礼品「プレミアム返礼品」をご用意しております。



プレミアム返礼品イメージ

プレミアム返礼品の詳細はこちら

https://www.kikin.tohoku.ac.jp/donator/premium_gift

【税制優遇措置について】

東北大学へのご寄附は税制優遇措置が適用されます。ご寄附後にお送りする寄附金受領証明書を確定申告にご利用ください。詳しくは東北大学基金ウェブサイト(<https://www.kikin.tohoku.ac.jp/>)にてご確認ください。

【お問い合わせ】

東北大学基金事務局(東北大学総務企画部基金・校友事業室内)
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
TEL:022-217-5058 / 5905 Email: kikin@grp.tohoku.ac.jp
ウェブサイト: <https://www.kikin.tohoku.ac.jp/>

